

学長対談 会長

(木村光伸)

(占部憲一)

21世紀最初の年、国内外の社会環境・経済情勢は厳しさを増し、少子化などと相まって母校 名古屋学院大学はどのように変化していくのでしょうか。今後の教育とは？ また私たち同窓会に期待される役割は？ これらをテーマに、占部会長と木村学長に対談していただきました。

社会・経済の動向に 即応する大学教育を

名古屋学院大学が2004年に設立40周年を迎えます。まずお二人の感想をお聞かせください。

占部会長(以下会長に略) 第1回卒業生が定年に近づく位の年齢になって参りました。また、親子ほど年齢の離れている同窓生が一緒に活動するようになっていきます。年代も20代から壮年層までと、同窓会としても人の厚みが増したのではないかと思います。



木村学長

木村学長(以下学長に略) まず最初に、2000年度の卒業生を含めて累計で3万名を超えました。戦後できた新制大学

としては、かなりまとまった人数であると思います。これは本学の特徴の一つですが、同窓生のかなりの方々が名古屋市中心とした比較的近隣に集中しています。遠方の方もたく



出席者 名古屋学院大学 学長 木村光伸
名古屋学院大学 同窓会 会長 占部憲一
同窓会 副会長 下村直己
司会

新しい試みを行って参りました。1989年の外国語学部開設をはじめ、商学科の学部化、社会人大学院や経済学部政策学科の開設など'80年代末からミレニアムに至るまでの間に、

さんいらっしゃいます。ある意味でヒューマン・パワーを活かしやすい形で社会に送り出して来たんだな、ということを実感しています。同窓生の方々に聞かせて言え、今親子ほど年齢が離れているというお話が出ましたが、現実には同窓生の方のご子弟が本学に入学され、卒業されている時代に入りました。これは40年近い歴史を見た時に、世代がぐるりと大きくひと回りしたという感慨を抱かざるを得ません。大学として、同窓会として、ようやくまとまりが出来始めたと言えるでしょう。まさしくこれからの展開が期待できるのではないのでしょうか。

これからの展開についてお話しいただけますか。

会長 これからの展開という意味とは少し前後するかも知れませんが、名古屋学院大学は学生全員にコンピュータを持たせたり、AO入試を導入したり、大学院を名古屋市内に開設したりと、他校に先駆けていろいろな試みを考えていますね。今後はどのような取り組みを考えていらっしゃいますか。学長 かに私たちはここ10年ほどいろいろな

その時々には社会が要請するものを作ってきました。これからは作ったものの上手く持続

させていかななくてはなりません。持続させるということは、単に続けていくのではなく、常に内容を吟味し、絶えずリフレッシュさせていく事が重要です。実はこれが難しい。大学は学部学科が増えれば良いわけではなく、所期の目的通りに運営されているか、社会の変化に伴い柔軟な姿勢で対応しているかを確認しながらでないといけません。ステップには踏み出せません。多分2004年に向けて、大学全体の組織を再構築して新しいものを生み出していくことになるでしょう。

会長 それは、新たな学部学科の開設もあるという意味でしょうか。

学長 それもあり得ます。その前に名古屋学院大学にはどんなコースが必要か、という分野に進出するべきかを十二分に検討した上で、新しい学部学科の展開ができないかを検討し始めた段階です。

時代の一步先を走る 名古屋学院大学

会長 時代と共に求められるものは変わりますから、簡単には決められないでしょうね。最近の若者は多様になつていきますし、これまで名

古屋学院大学で学ぶ基本要素であった経済の分野だけでなく、社会的に実用性の高い学部学科が必要となるような気がしています。学長 実用的という視点はキーポイントだと思います。近年は各大学が他校と差別化を図るため、その時のトピックスに的を絞った学部を開設して来ましたが、これは数年の間は良いかもしれませんが、時代の要請が変われば次の展開はあり得ないのです。今の時代のトピックスに上手くフィットしながら、今後の展開を見通せる学部を作らないといけないと思います。当面の間私たちは、既存学部の質的充実を図り、社会・経済の動きに即応できるようなカリキュラム作りに取り組みたいと考えています。

会長 学長が考えていらっしゃるカリキュラムを活かして、学生に学んでもらいたいと思われている事は何ですか。また昨今は国際化時代と言われていますが、この流れに対してはどのように取り組まれますか。

学長 まず、それぞれの学部学科レベルで、社会に果立つ前の基礎的な専門教育をしっかり学んでもらうことは当然ですが、学問が実は面白いものであると知っていただきたい。そして社会で最低限必要な知識を吸収し、後は自分が社会に出てから否が応でも直面する様々な問題を、試行錯誤しながら乗り越えていくだけの、知的逞しさを身に付けてもらえるカリキュラムを組みたいと思います。次に、国際化という言葉に関心してですが、これは外国語学部の範疇だけに留まる話題ではなく、全学生共通のテーマです。例えば、語学を身に付